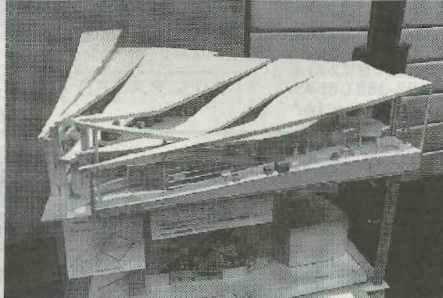


2021年9月28日

建設通信新聞

「10本の帯から生まれる『渚』」の模型



総合資格（東京都新宿区、岸隆司代表取締役）が運営する総合資格学院と建築学縁祭学生実行委員会は26日、建築系イベント「建築学縁祭」の一環として、首都圏の建築系学生が作品を競う「Rookie選」を開いた。1次審査を通過した100作品の中から審査員が10件を選び、公開講評審査会を経て、最優秀賞には御巫景祐さん（早大3年生）の「10本の帯から生まれる『渚』～2つの町の新しい境界～」が輝いた。東京都新宿区の新宿パークタワーで開かれた講評会はオンラインで配信された。

冒頭、岸代表取締役は「コロナ禍の中で少しでも多くの学生の発表の場を創出したい」と思い、イベントを企画した。日ごろの成果を発揮し、今後の糧になるこ

建築学縁祭Rookie選

最優秀に御巫さん(早大3年生)



賞状を受け取る御巫さん(右)の伊東豊雄氏は、プレゼンテーションを控えた10人の学生に「どうアピールするか狙いを定めて、どのような球種を投げるかを考え

とを願っている」とあいさつした。

総合資格学院と建築学縁祭の特別顧問を務める建築家

計することで、南北のまちの新たなつながりや多様な学び環境を創出した。

審査員からは「なかなか見たことのない建築だと思った」など、独自性を評価する声が上がった。

御巫さんは表彰後、「まさか最優秀賞になるとは思っていなかった。両親、先生、友達に感謝したい」と喜びをかみしめた。

優秀賞には久野祐璃さん（日大3年生）の「MM GATE SQUARE『海と陸を紡ぐゲート』」、大岩樹生さん（法政大3年生）の「待つ壁 下北沢駅前元小田急

つながりや多様な学び環境創出

た方がいい。審査員にアピールしないと勝てない」とアドバイスした。

最優秀賞の10本の帯から生まれる「渚」は、北側の閑静な住宅地と南側のにぎやかな繁華街に挟まれた東京・渋谷の敷地で、従来の図書館のような「静かな空間」とラーニング・コモンズの「にぎやかな空間」、それらを結びつける10の帯を設

線セルフビルドを誘う未完の集合住宅」が選ばれた。

建築学縁祭は、首都圏の建築系学生の思い出となるようなイベントとして企画し、今回が初開催となる。シンポジウム、公開講評審査会などで構成し、24～26日まで開かれた。Rookie選には約350作品の応募があった。

総合資格学院、学生実行委